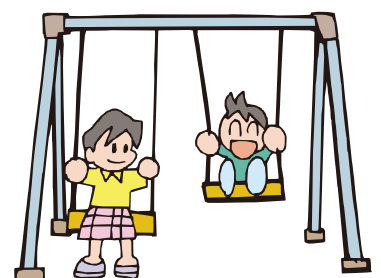


## 保幼小接続期カリキュラム

本市では、就学前施設と小学校がそれぞれの教育内容を相互理解し、幼児教育と小学校教育を滑らかにつなぐために、「保幼小接続期カリキュラム」を作成しました。本カリキュラムは、「生きる力」を育む源である、「知・徳・体」（確かな学力・豊かな心・健やかな体）の3つの観点で構成しています。また、幼児教育から小学校教育への「接続期」を就学前5歳児（1月～3月）から、小学1年生（4月～6月）までの期間と捉えています。

平成28年12月に出示された中央教育審議会答申では、「小学校低学年は、学びがゼロからスタートするわけではなく、幼児教育で身に付けたことを生かしながら教科等の学びにつなぎ、子ども達の資質・能力を伸ばしていく時期である」と示されています。

就学前施設における保育・教育の中では、子どもが主体的に「面白い」「もっとやりたい」「友達にも知らせたい」「一緒にやってみたい」など、遊びや実体験を通して、たくさんのことに気付き、学んでいきます。身に付けた力を、小学校以降の生活で十分発揮できるように子どもの育ちを確かなものにしていくことが大切です。



# (1) 保幼小接続期カリキュラムの概要

小学校生活につながる保育・教育活動

5歳児1月～3月



小学校入学

「連続する子どもの

アプローチカリキュラム

## 知

- ◎ 自然との関わり
- ◎ 言葉、文字、数、形への興味や関心
- ◎ 表現、技能

- ・春の訪れと共に入学する喜びが感じられるようにする
- ・動植物との触れ合う機会をもてるように配慮する
- ・絵本や物語の読み聞かせの時間を大切にして、想像する楽しさを実感できるようにする
- ・遊びや生活の中で文字や数に関心をもてるようにする
- ・全身を使っていろいろな表現を楽しめるようにする
- ・みんなで一つのもの表現できるようにする

## 徳

- ◎ 自立心
- ◎ 自尊心
- ◎ 協同性
- ◎ 規範意識の芽生え

- ・みんなで集う楽しい体験を積み重ねる
- ・年長児としての自信や自覚がもてるようにする
- ・自分でできることは自分でしようとする気持ちをもてるようにする
- ・入学への期待をもつと共に、お世話になった人たちに感謝の気持ちを表す機会をもつ
- ・協力してやり遂げる喜びが感じられるようにする
- ・友達のよさに気づき、互いに認め合える関係が作れるようにする
- ・きまりやルールの意味を知らせる

## 体

- ◎ 基本的な生活習慣
- ◎ 運動

- ・食べ物への興味関心をもち、進んで食べられるようにする
- ・トイレの利用について理解して使用できるようにする
- ・ときと場に応じて、自分で衣服や靴の着脱を行うことができるようにする
- ・危険なことを自ら判断する等安全に対する意識を高めるようにする
- ・見通しをもって生活し身の回りのことも自分で行えるようにする
- ・様々な運動遊びを体験できる機会をもち、心身ともに健康になり自分から人や物に関わっていきけるようにする

## 就学前の経験を活かした教育活動

1年生4月～6月

## 発達や学び」を導く手だて

### スタートカリキュラム

- ・体験的な活動を通して五感で感じ考える習慣を身に付ける
- ・生き物を飼ったり、育てたりして、自然との触れ合いを深め、生き物への親しみがもてるようにする
- ・知的好奇心を高める導入の工夫や環境設定を行う
- ・読み聞かせを継続し、想像し考える体験を充実させる
- ・文字や数への興味や関心を高める
- ・運動や音楽、創作活動を通して楽しく自己表現させる

- ・自分でできるようになったことや、生活の中での自分の役割が増えたことなどの喜びに共感する
- ・自分の成長を支えてくれている身近な人々に気付かせ、感謝の気持ちもてるようにする
- ・目的やルールを話し合い、友達と協力する楽しさが感じられるようにする
- ・折り合いをつける経験を重ね、友達の幅を広げる
- ・順番やルールを守ることができるように指導する

- ・食べ物に興味関心をもち、食べ物を大事にする心を育む
- ・給食時の約束を知らせ、楽しく食事をさせる
- ・トイレの使い方を指導する
- ・各自の衣服や給食のエプロンのたたみ方に慣れるようにする
- ・身の回りを清潔にし、掃除の仕方を覚える
- ・登下校の安全を確保する
- ・学校における基本的な生活習慣の確立に向けて指導する
- ・集団生活に慣れ、運動や外遊びを楽しめるようにする
- ・休み時間に体を動かして遊ぶことを促す

## アプローチカリキュラム(5歳児1月～3月)

### 小学校生活につながるための保育者の指導のポイント

### めざす幼児の姿(卒園時)

#### ◎春の訪れと共に入学する喜びが感じられるようにする

- ・春に花が咲く植物の種まきや苗植え、球根植えを行い、春の訪れを感じさせながら自分たちが成長した喜びを味わわせる環境を整える
- ・節分、ひなまつりなど季節の変化に対応した遊びが生まれるよう環境を作る
- ・霜、氷探し、氷作り、日差しの温かさ、春の七草、木の芽ぶきなど、見て、触って感じることができるような、五感を通して直接的な体験ができるようにする
- ・こままわしや凧揚げなどができる環境を作り、伝統的な遊びに関心をもてるようにする
- ・自然現象をテーマにした歌を歌ったり、本を読んだりすることで、季節の変化への興味関心を高める
- ・身近な自然と触れ合える環境を大切に、興味や関心、疑問などをもてるようにする

#### ◎動植物との触れ合う機会をもてるようにする

- ・ヒヤシンスや水仙など根の様子や芽が出る様子を見ながら世話ができる水栽培などを用意して、植物との触れ合いをもてるようにする
- ・成長の過程を楽しみながら、花、実の色や形、種などについて興味関心が高まるようにする
- ・生き物への興味関心が高まったり、生態についての幼児の気付きを話題にしたりできる身近な生き物を飼育し観察できるようにする
- ・幼児が興味をもったり疑問を感じたりしたときにすぐに調べられるよう図鑑や絵本を手に取りやすい位置に用意しておく

#### ◎季節感や社会事象を意識した掲示物の工夫をする

- ・季節や社会事象に関連した写真やカレンダー、新聞などを掲示し、情報発信の方法を工夫する

- ・季節の変化や自然現象に興味関心をもち、考えたり試したりする
- ・自然の不思議さに気付き、伝えあったり、図鑑で調べたり、遊びに取り入れたりする
- ・身近な動植物の世話などを通して命の大切さを感じたり、生き物の体の仕組みについて気付いたりする
- ・掲示物等に興味をもち、進んで見たり内容を理解したりする

#### ◎絵本や物語の読み聞かせの時間を大切に、想像する楽しさを実感できるようにする

#### ◎地域の図書館や小学校の図書室を活用し、地域資源の活用を視野に入れ、園にある本に親しみ読みたい本を選んで見られる環境を作る

#### ◎言葉遊びを楽しめるようにする

- ・文字集めやしりとり遊びを取り入れ、物と数を対応させて手紙などを配ったりする経験を通して、文字や数に親しみ、遊びに取り入れられるようにする
- ・子どもたちが遊びを通して、文字や数字に興味関心をもてるように、すごろく、カルタ、書き初めなど、遊びの中で文字や数字に触れ合うことが出来るようにする

#### ◎保育者の聞く態度が、幼児の話す意欲を育てるととらえて、共感的な態度で幼児の話聞き、言葉で伝え合う喜びを感じさせる

#### ◎遊びや生活の中で文字や数に関心をもてるようにする

- ・「今日は何日」「卒園式まであと何日」などカレンダーや行事予定表を見ながら話し掛け、数字を読むこと、数字に順番があることに興味関心が高まるようにする
- ・物を配るときなど、数を数える必要性を感じられるような機会を設ける
- ・こま、すごろく、かるたなどの中でたくさん数字や文字に触れ、楽しんで関わっていきけるように配慮する
- ・数量により勝敗のつく遊びを取り入れ、友達同士が教え合ったり、意識し合ったり認め合うことができるように、振り返りの時間を大切にする。
- ・リレーやドッジボール、サッカーなど遊びの中で人数を調整したり、得点をつけたりすることの必要性に気付くようにする
- ・積み木の構成や空き箱制作、多様な教材、教具、遊具との豊かな関わりの中で物の形や仕組みに気付き遊びに活かせるようにする
- ・「数字のうた」「カレンダーマーチ」や数に関わる手遊びなどを通して数への興味を喚起する

- ・絵本や物語などに親しみ、想像する楽しさを味わったり、言葉の楽しさに興味をもったりする
- ・言葉の響きやリズムの美しさに気付き、遊びや生活に取り入れようとする
- ・自分の名前や、月日や曜日、天気や用具や遊具を片付ける場所など文字と絵などによる表示を理解し活用する
- ・正月遊びや伝承遊びの中で、文字や数量に関心をもって楽しむ
- ・数量や図形、文字などに関心をもち生活や遊びの中に取り入れて楽しもうとする

#### ◎全身を使っているような表現を楽しめるようにする

- ・感じたことや思ったこと想像したことなどを様々な方法で楽しく表現できるように必要な素材や用具の準備など環境を整えておく

#### ◎道具の特性を知り、使えるようにする

- ・糊やテープ、ホッチキス等の道具の使い方や、紙の折り方や紐の結び方などの技能を身に付け、生活や遊びの中で活用できるようにしていく
- ・クレヨンや絵具、色鉛筆等の基本的な使い方を知らせ、材質の特性を知ることで目的に合った道具を選ぶ力を育てる

#### ◎みんなで一つのものを表現できるようにする

- ・共同製作や劇遊び、歌を歌うなど共通の目的に向けて互いに自分なりのイメージや思いを出し合いながら取り組む活動を通して刺激し合い、力を合わせてやり遂げた達成感を味わえるようにする

#### ◎音の面白さや美しさ、リズムの強弱等を意識しながら歌を楽しむ機会をつくる

- ・自分なりの思いやイメージを様々な方法で自由に表現する
- ・いろいろな素材や用具に親しみ工夫して遊ぶ
- ・友達と歌を歌い、リズムや音の美しさを感じたり、歌声がそろう楽しさや心地よさを感じたりする



## 学びの基礎力

スタートカリキュラム(1年生4月～6月)

めざす児童の姿(3か月後)

就学前の経験を活かした指導者の指導のポイント

### 自然との関わり

- ・身の回りの生活や自然の様子などから、季節の変化を感じる
- ・身近な植物や小動物の成長に興味をもって世話をする
- ・掲示物等に興味をもち、進んで見たり内容を理解したりする

- ◎体験的な活動を通して五感で感じ考える習慣を身に付ける
  - ・自分の周りの様々な自然(春の風、桜、こいのぼり、梅雨など)に気付かせる
  - ・話をしたり、教科書や絵本を用いたりして、季節を感じられるように、言葉・絵・動作などで感じたことを表現できるようにする
  - ・校庭で見つけた草花を飾る小瓶などの容器を用意して、子どもが休み時間に取ってきたものが飾れるようにする

- ◎生き物を飼ったり、育てたりして、自然との触れ合いを深め、生き物への親しみがもてるようにする
  - ・教室や子どもの身近なところで、動物を飼ったり、植物を育てたりする
  - ・生き物の育つ場所や変化、成長の様子に関心をもてるようにする

- ◎知的好奇心を高める導入の工夫や環境設定を行う
  - ・絵や図を活用した色彩豊かな掲示物を工夫したり、季節感のある作品やカレンダー等を掲示したりする
  - ・季節の移り変わりが感じられるように、配慮する

### 言葉、文字、数、形への興味や関心

- ・文字や数に対する興味をもって学習にのぞむことができる
- ・正しくひらがなが読み書きできる
- ・10までの数について正しい書き方や読み方が分かり、その意味や順序が分かる
- ・教科書を活用して学習することができる

- ◎読み聞かせを継続し、想像し考える体験を充実させる

- ◎文字や数への興味、関心を高める
  - ・絵や写真を活用しながら、視覚的に捉えられるように、絵や写真などを掲示する
  - ・クラス名簿を教室に掲示して、友達の名前やひらがなを覚えられるようにする
  - ・授業中だけでなく、生活場面でも機会を捉えて指導していく
  - ・国語科でひらがなの読み書きを進め、鉛筆の持ち方も指導する
  - ・算数科では仲間分けなどを通して数への興味をもたせたり、時計やカレンダーの見方の概要を知らせたりする

- ◎どのくらい、どんな形、どの場所(「前後」「上下」「左右」)の感覚が分かるようにする
  - ・自分の必要なものを求めるときや必要なことを伝える時に物の数量や形状、場所が相手に分かるように言い表すことができるようにする
  - ・並んだときに何番目か、何人いるかなど一緒に考えていく

### 表現、技能

- ・自分の感じたことや思いをのびのびと表現できる
- ・自分の思いを歌ったり踊ったりして全身で表現することを楽しむ
- ・見たものや想像したことを絵や図で表すことができる

- ◎運動や音楽、創作活動を通して楽しく自己表現させる
  - ・小学校に入学してやりたいことなどを言葉や絵で表現させる
  - ・音楽科以外にもよく知っている歌を歌う機会をもち、みんなで歌う楽しさを味わうようにする
  - ・校歌の指導を通して小学校の一員であることの自覚を促す

## アプローチカリキュラム(5歳児1月～3月)

## 学びの

### 小学校生活につながるための保育者の指導のポイント

### めざす幼児の姿(卒園時)

#### ◎みんなで集う楽しさの体験を積み重ねる

- ・自分の役割を認識し、クラスの一員であることを自覚しながら、友達と一緒に生活を送れるようにする
- ・遊びや行事の後に振り返りを行い、思いを共有できるようにする

#### ◎年長児としての自信や自覚がもてるようにする

- ・未就園児、近隣の幼稚園やこども園、保育所、小中学校、保護者、地域の方など、様々な人と触れ合う機会をもち、相手を思いやる気持ちをもてるように支えていく
- ・4歳児への遊びの引継ぎや、幼稚園における一日入園、修了に向けて身の回りの整理などをすると共に、小学校に関する絵本を見たり、給食試食会、授業見学など学校の生活に触れたりする
- ・自分の考えを伝えたり、相手の考えを受け入れたりする姿を支え、クラス当番やグループリーダーなどの当番活動を取り入れることにより、自分たちで遊びや生活をすすめていく喜びを感じ、積み重ねていけるようにする

#### ◎担任以外の人との関わりがもてるようにする

- ・伝達や届け物など担任以外の職員とコミュニケーションを図る機会を意図的に作る
- ・何か困ったことがあるときには自分で伝えられるように促す

#### ◎場に応じた言葉づかいをし、名前を呼ばれたときには「はい」と返事ができるようにする

#### ◎自分でできることは、自分でしようとする気持ちがもてるようにする

- ・自分のことは自分でできるようになったことを十分に認め、入学に向けて自信をもって生活している態度を支え、共感する

#### ◎入学への期待をもつと共に、お世話になった人たちに感謝の気持ちを表す機会をもつ

#### ◎協力してやり遂げる喜びが感じられるようにする

- ・グループ製作や行事での係活動、劇遊び、合奏など友達と協力して取り組む機会をつくる
- ・自分たちで声を掛け合って、遊びや生活をすすめていけるようにする
- ・クラス全体やグループで、自分たちで遊びを計画したり、発展させたりして意欲的に活動できる場をつくる
- ◎絵本や物語の読み聞かせの時間を大切に、話を聞く楽しさを実感できるようにする

#### ◎葛藤する経験を大切にする

- ・グループや学級全体での活動について、結果だけでなく、つまづきを乗り越えたり、繰り返し努力したりした過程の大切さに気付かせる
- ・活動を通して起きた友達との対立や葛藤は大切な経験ととらえる

#### ◎友達によさに気づき、互いに認め合える関係が作れるようにする

- ・友達と一緒に活動していく中で自分以外の人の考えを取り入れたり、刺激を受けたりしてより発展できるような配慮をする

#### ◎きまりやルールの意味を知る

- ・遊びや生活の中で必要に応じて、「なぜしてはいけないことか」を考える場や「やってよいことと悪いこと」を友達と考え合う場をつくり、マナーやルールが身に付くようにする
- ・近隣施設や小学校、幼稚園やこども園、保育所へ行く機会をもち、そこでのルールや理由を投げ掛け、子どもと共に考える
- ・他のクラスや保育所の子どもとの交流の時間をもち、相手や状況に応じてきまりやルールがあることを知る
- ・子ども同士での約束事や課題解決の過程を大切にする

- ・クラスの友達と一緒に、自分たちで生活を進めていこうとしたり、周りの人のためにできることをしたりする中で、自信や有用感をもつ

- ・年長児クラスの一員として意識をもち、友達と共通の目的をもって遊びや生活を作り出す喜びを感じる

- ・担任以外の身近な人とも親しみ関わりを深めようとする

- ・自分たちの成長を見守ってくれた家族や周りの人に感謝の気持ちをもつ

- ・お別れ会、卒園式などその場にふさわしい態度でのぞむ

- ・園生活を通して自分の成長を振り返り、入学への期待を感じ、大きくなったことを喜び、成長を喜ぶ

自立心  
自尊心

- ・友達と共通の目的をもち、役割を分担したり、協力したりしながら遊びを作り出す

- ・グループやクラスの友達と共に自分たちで主体的に共通の目的に向かって考えを出し合い、協力して活動する

- ・クラスやグループの活動の中で自分の力を発揮し、互いのよさを認め合える

- ・自分の思いを自分の言葉で伝えたり、相手の言葉に気持ちを向けて聞いたりしながら、折り合いをつけて遊びを進めていく

協同性

- ・よいことや悪いことがあることに気づき、考えて言動する

- ・きまりや社会のルールを知り守る

- ・幼稚園やこども園、保育所外での社会生活のきまりやルールがあることを知り、守ろうとする

規範意識の  
芽生え

## 基礎力

### スタートカリキュラム(1年生4月～6月)

#### めざす児童の姿(3か月後)

#### 就学前の経験を活かした指導者の指導のポイント

- ・入学への喜びを感じ、自分の成長を誇らしく思う
- ・友達や先生に挨拶したり話したりする
- ・担任との信頼関係を築きながらも、学級みんなの先生であることを理解できる
- ・自分の体調の変化や困っていることなどを自ら担任や養護教諭などに申し出ることができる
- ・「できた」という喜びを感じ、「やってみよう」という意欲をもつ
- ・自分の成長を支えてくれている人々に気付き、感謝の気持ちがもてるようになる

- ◎家庭訪問に限らず、保護者との関わりをもち、情報を交換し合う
- ◎単純明快な指示とスキンシップを心掛ける  
・教師がすすんで元気な挨拶をしたり、集団遊びにも関わったりする
- ◎学校での基本的な生活習慣を担任が実際にやって見せる
- ◎学校探検で担任以外の教職員について知ることができるようにする
- ◎下校時に明日への学校へ期待をもたせる話やゲーム、握手などを行う
- ◎休み時間は児童と共に過ごすことで、児童に不安を与えないようにするとともに、児童理解を深める
- ◎一度に複雑なことを要求せず、児童にとってすべきことが明確になる分かりやすい指示で指導する
- ◎朝の健康観察の徹底と言葉掛けを行う
- ◎養護教諭による保健指導を行う
- ◎自分でできるようになったことや、生活の中での自分の役割が増えたことなどの喜びに共感する  
・一つ一つ出来るようになったことを確認し認める
- ◎自分の成長を支えてくれている身近な人々に気付け、感謝の気持ちがもてるようになる  
・進んで人の手伝いなどをして、人の役に立つ心地よさを感じさせる

- ・自分がクラスの一員であることを感じ取り安心感をもつ
- ・友達から話を聞いたり、自分の思いを伝えたりして、協同的に活動できる
- ・友達と一緒に活動したり協力したりする楽しさが分かる
- ・他学年の児童とふさわしい人間関係で接することができる

- ◎目的やルールを話し合い、友達と協力する楽しさが感じられるようにする  
・入学当初は友達と一緒に協力するゲームなどを取り入れる  
・隣同士の2人組から生活班等へ簡単な活動での小集団の活用をする  
・席替えやグループで活動するときなどに同じ保育所や幼稚園から入学してきていない子ども同士をつないで、友達づくりの機会を増やす  
・「ありがとう」「ごめんね」等友達同士で使うべき言葉の指導を行う
- ◎折り合いを付ける経験を重ね、友達の幅を広げる  
・嫌なことを言われたときの気持ちや対応の仕方を理解させる  
・友達から言われてうれしい言葉や嫌な言葉等について話し合い、使うべき言葉づかいの指導をロールプレイ等を活用して行い、よりよい人間関係の基礎を育てる
- ◎トラブルになったときの対処を自分たちでできるように指導する  
・やってよいことと悪いことの場面設定等により具体的に指導する

- ・きまりを守って安全に仲良く生活できる
- ・集団で生活していることに気付き、自分勝手な行動をしない
- ・してはいけないことに気付き、自らの行動を制御することができる
- ・学級の約束や目標を守ろうとする

- ◎順番やルールを守ることができるように指導する  
・学校、学級のきまり等を理解させる  
・守るべきことを周知徹底する(大切なことから少しずつ)  
・優先順位をつけて、学校でのきまりを一つ一つ指導する  
・学校のきまりなどを学年便りなどを通じて保護者に知らせ、理解を図る



## アプローチカリキュラム(5歳児1月～3月)

### 小学校生活につながるための保育者の指導のポイント

### めざす幼児の姿(卒園時)

- ◎食べ物への興味関心をもち、進んで食べられるようにする
- ◎食事のマナー(箸の使い方、挨拶や姿勢、食事の後は歯を磨く等)を守って楽しく、食べられるようにする
  - ・楽しくおいしく食事をするためには、食事のマナーを身に付けることがとても大切であることから、個々の実態を丁寧に把握し、意識を高めたり目標をもって取り組んだりできるようにする
  - ・箸を正しく使えるように一人一人の状況を受け止め、個別に丁寧に指導を行い、ゲームの要素を取り入れるなど、食事以外の場面でも取り組む
  - ・食事の時間を意識できるように、小学校の給食時間である20分～25分を目安に昼食の時間を意識して食べ終わるようにしていく

- ・楽しさを感じ、食への関心を高める
- ・マナーを守って楽しく食べる
- ・苦手な物でも少しずつ食べようとする
- ・箸を正しく持って食べる
- ・食事の準備や片付けを友達と協力して行う
- ・一定時間内で食事をする
- ・食事の後に自ら歯磨きをしようとする

- ◎トイレの利用について理解して使用する
  - ・衣類や下着などは全部脱がずに済ませ、身支度が整えられるよう指導する
  - ・和式トイレを使用する機会を意図的に作る
  - ・活動の区切りや食事の前などに、トイレを済ます習慣が身に付くようにする
  - ・就学時健診、1日入学などの機会を通して、入学までに保護者と共に小学校のトイレの利用を呼び掛ける

- ・水洗トイレの使い方や使用後のスリッパを揃えることが分かる
- ・トイレの和式と洋式の使い方を知る
- ・活動と活動の間にトイレに行く

- ◎とき場に応じて、自分で衣服や靴の着脱を行うことができるようにする
  - ・衣服の着脱、脱いだ服をたたむなど、自ら進んでできるようにする
  - ・靴の脱ぎ履きは立ったままできるよう、毎日の生活の中で習慣付けるようにし、脱いだ靴を揃えたり、靴箱に入れたりする習慣も併せて身に付けさせる
  - ・活動に応じて、素足でいるときと上靴を履くときとの区別を意識させる

- ・自分で服を着たり脱いだりたたんだりする
- ・気温に応じて衣服の調節をしようとする
- ・靴の脱ぎ履き、衣服の着脱などを一定時間内で手際よく行う

- ◎身の回りを自分で、清潔に保つことができるようにする
  - ・手洗いうがいの大切さを指導し、進んで行えるようにする。
  - ・タオル掛けにある手拭きタオルのみでなく、ポケットのハンカチやティッシュを使用できるよう意識させる
  - ・布巾や雑巾、ほうきの使い方に慣れ、洗ったり絞ったり掃いたりなど用具の正しい扱い方ができるようにする

- ・手洗いうがいの大切さが分かり、進んでしようとする
- ・ハンカチやティッシュを必要に応じて使う
- ・身の回りをきれいに保つことの心地よさを味わう

- ◎危険なことを自ら判断する等、安全に対する意識を高めるようにする
  - ・危険な遊び方について気付き、安全な行動をとれるようにする
  - ・道具を正しく使えるよう、扱い方を知らせていく
  - ・道路の正しい歩き方など交通ルールを知らせ、登降園指導などを通じて伝えていく

- ・交通ルールを知り、安全に行動しようとする
- ・道具の安全な使い方が分かる

- ◎見通しをもって生活し、身の回りのことも自分で行うことができるようにする
  - ・はさみやクレパス、色鉛筆など必要な用具を準備したり、使ったものを所定の場所に片付けたり、道具箱などをいつも使いやすいように場を整え、自ら整理整頓しておく習慣が身に付くようにする
  - ・日にちや時間の流れが分かり、生活に見通しがもてるように掲示物等や言葉掛けを工夫する
- ◎入学への期待がもてるように、焦らせることのないよう保護者と連携し、啓発していく

- ・持ち物の整理整頓を自分でしようとする
- ・時間を意識して行動しようとする
- ・生活や活動を進める中で、自分のなすべきことが分かり見通しをもったり周囲の状況を判断して行動したりする

- ◎様々な運動遊びを体験できる機会をもち、心身ともに健康になり自分から人や物に関わっていけるようにする
  - ・健康な体を作ると同時に、体を動かして遊ぶことで食欲が増えたり、睡眠につながっていくように配慮する
  - ・縄跳び、ボール、跳び箱、鉄棒、平均台などの遊具を活用して、歩く、走る、飛ぶ、投げる、捕る、蹴る、登る、ぶら下がるなど体の様々な部分を使った動きを経験させる
  - ・戸外で友達と鬼遊びやボール遊びなどを行い、自分たちで遊びを準備したり、遊びのルールを作ったりしながら、自分から様々な人や物に関わっていけるようにする

- ・寒さに負けず、進んで戸外で遊ぶ
- ・遊具や用具の安全な使い方を知って遊ぶ
- ・ルールのある遊びを工夫して楽しむ



学びの基礎力

スタートカリキュラム(1年生4月～6月)

めざす児童の姿(3か月後)

就学前の経験を活かした指導者の指導のポイント

基本的な生活習慣(食事)

- ・食べ物に興味関心をもつ
- ・給食時のマナーを知り、マナーを守って楽しく食べる
- ・当番のやり方を知って安全に当番活動しようとする
- ・自分の食べられる量が分かり、残さず食べる
- ・苦手な物でも少しずつ食べようとする
- ・後片付けの仕方が身に付く
- ・食事の後には歯磨きをする

- ◎食べ物に興味関心を持ち、食べ物を大事にする心を育む
- ◎給食時の約束を知らせ、楽しく食事をさせる
- ・配膳について、一つ一つ確認しながら、作業手順を覚えさせる
- ・少なめの配膳で少しずつ量を増やし、自分の適量を把握させる

基本的な生活習慣(排泄)

- ・トイレの使い方に慣れる
- ・トイレに行きたいことを伝えることができる
- ・休み時間にトイレに行く

- ◎トイレの使い方を指導する
- ・和洋両方のトイレの使い方を知らせる
- ・トイレは休み時間に行くようにさせるが、我慢できない場合は申し出るようにさせる

基本的な生活習慣(着脱)

- ・素早く、衣服の着脱や始末ができる
- ・気温に合わせて着脱できる

- ◎各自の衣服や給食のエプロンのたたみ方に慣れるようにする
- ・体操服や給食エプロンの着脱や始末が短時間でスムーズにできるように指導する

基本的な生活習慣(清潔)

- ・手洗い、うがいを自分から進んでしようとする
- ・自分の持ち物は自分で準備する
- ・掃除の仕方を知り、掃除時間内に終了するように一生懸命掃除する

- ◎一生懸命掃除をしようとしている姿を認め、小学校の掃除の仕方を知らせる(ほうきを動かす方向と自分が進む方向、ごみを残さずに掃く掃き方)
- ◎身の回りを清潔にし、掃除の仕方を覚える
- ・業間後、給食前、トイレ後の手洗いをできるように声を掛ける
- ・ティッシュやハンカチは常にポケットに入れて、必要などきに使えるようにさせる
- ・正しいほうきやちりとり、雑巾の使い方を指導し、子どもが自分で使えるようにする

基本的な生活習慣(安全)

- ・集団生活をする上で注意しなければならないことを理解し、危険なことを避ける
- ・交通ルールを守って登下校する

- ◎登下校の安全を確保する
- ・入学当初、1年担任は教室で児童を迎える
- ・下校時は方面別に集団下校を実施し、大人は交差点など具体的な危険個所を伝え、渡り方等を実演して示す
- ・危険な場所や行為を想定した場を設定し、判断させる

基本的な生活習慣(生活リズム・生活態度)

- ・自分の持ち物を自分で準備し、整理整頓を習慣化する
- ・チャイムの意味を知り、その場に合った行動をとることができる
- ・45分間落ち着いて学習に取り組むことができる
- ・休み時間中にトイレ、水分補給、手洗い、うがい等必要なことを済ませることができる
- ・教室内の掲示や板書を見て、次時や翌日の準備などを理解することができる

- ◎学校における基本的な生活習慣の確立に向けて指導する
- ・自分で管理するものは最小限にし、片付ける場所を指定する
- ・教科書やノート、学習用具などを使った学習に慣れるようにする
- ・学習用具の置き方や鉛筆の持ち方など丁寧に指導する
- ・できるようになったことを一つ一つ認め励まし、学ぶ楽しさを味わうようにする
- ・出席をとりながら一人一人の児童の健康観察を行う
- ・健康観察時、具合の悪いときは自分から言うように指導する
- ・登校を渋っている児童や不安を示している児童の把握を行う
- ・朝の時間の工夫(読み聞かせ、簡単な運動等)による生活リズムを定着させる
- ・15分、20分、30分等小単位時間でのモジュール授業の導入を行う
- ・チャイムを意識させ、休み時間の活用方法を指導する
- ・教師も外遊びをしながら指導を行う
- ・1日の流れが分かるように前面壁に予定を書き、必要最小限のものだけを掲示する
- ・授業中と、休み時間とではとるべき行動が違うことを理解させる

運動

- ・集団行動の基本的な動きを知り、楽しく運動し、力いっぱい活動する
- ・動きを工夫し、結果を予想しながらけがの防止に努めることができる
- ・手を使って細かい作業を行うことができる
- ・プリントをたたんで連絡袋に片付ける

- ◎集団生活に慣れ、運動や外遊びを楽しめるようにする
- ・「気をつけ」「前にならえ」「休め」などの号令に合わせた行動の仕方を教えききびと動く練習をする
- ◎休み時間に体を動かして遊ぶことを促す
- ◎体育科では体づくり運動を通じて体を動かすことの楽しさや心地よさを味わわせる
- ◎ブロックやおはじきなど手を使って細かい作業をし、それらを元に考えを深めたり、学習に結び付けたりすることができるように指導する
- ◎入学当初はプリントをたたむ時間を配慮して配り、少しずつ慣れさせていく

